

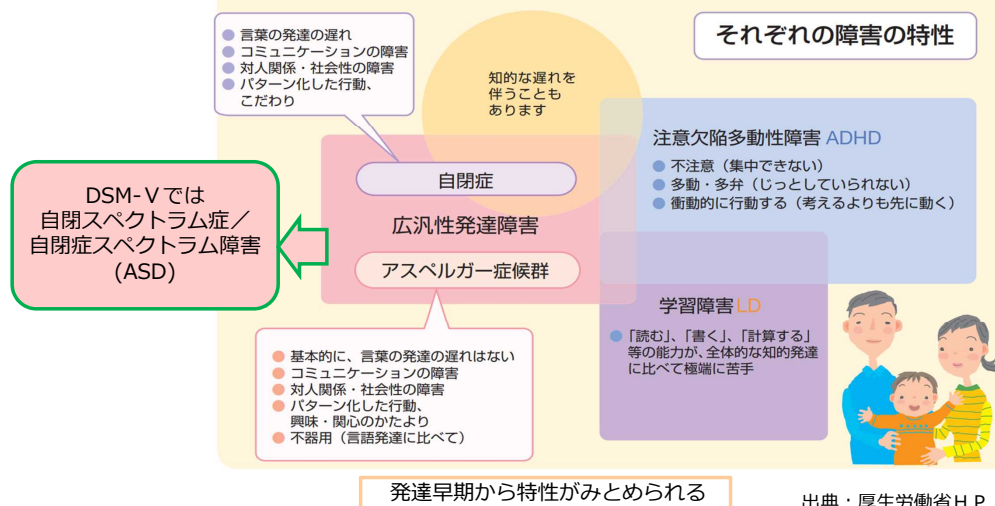
令和6年2月20日
特別支援教育あどばいすタイム

発達障がい児の二次障がいへの 予防と支援



徳島県発達障がい者総合支援センター ハナミズキ
地域支援・連携担当 早瀬 美和子

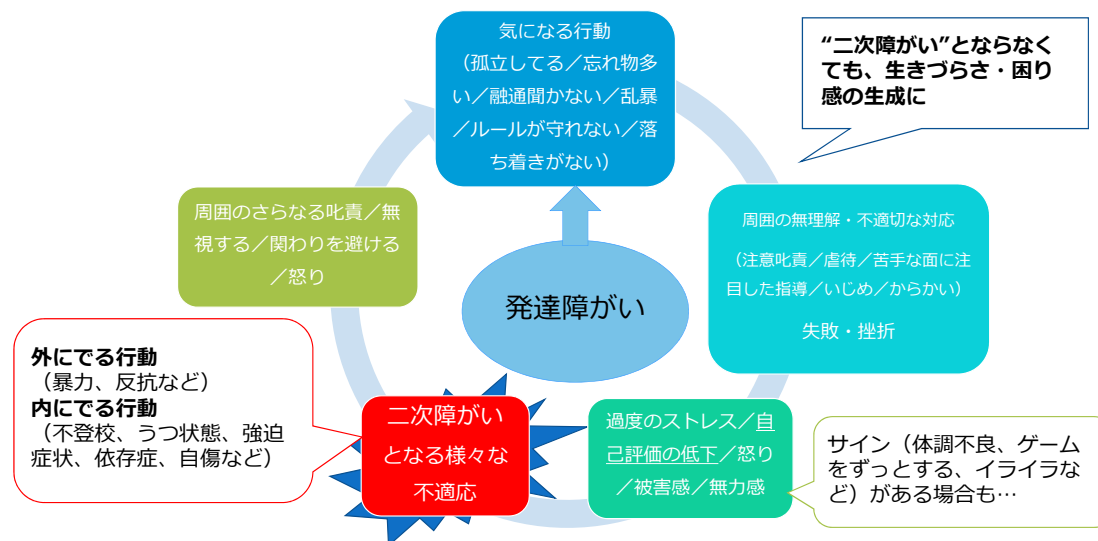
代表的な発達障がい



発達障がいの特性による学校生活のしづらさ

対人関係の問題	刺激-反応の問題	感情面の問題	認知面の問題	その他
<ul style="list-style-type: none"> ● クラスメイトと協調して行動することが苦手（暗黙のルールが伝わりにくい） ● 同世代の子とのかかわりが苦手（会話がずれる、一方的に話す） ● 自分の考えを強引に主張したり、悪気無く思ったことを人に言ったりでもめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な感覚過敏/鈍麻によるストレス ● 叱責などの刺激に対して暴れる、固まる、ぼーっとする、逃げる等の様々な反応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 衝動性（待てない、思ったことを言う） ● 感情のコントロールの弱さ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 0か10か傾向（勝ち負けにこだわる。できること/できないことの差が大きい等） ● こだわり、頑固さ、切り替えの苦しさ（場面転換から気持ちの切り替えまで） ● 実行機能（先の見通しをもった行動が苦手、待てない） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業中に席を離れる、姿勢保持が難しく床に寝転ぶ ● 同じ診断があっても、多動⇔ぼーとする 敏感⇔鈍感 不適応⇔過剰適応 対人回避⇔対人距離が近い等両極端の出方をする ● 人間関係や学習面で困ってなくても、学校での集団生活そのものが苦痛になる子ども → 不登校、ひきこもり、ゲーム依存等との親和性

二次障がい = 発達障がいの特性 + 環境との悪循環



愛着と感情発達について

暴力、薬の過剰摂取（OD）、リストカット、不登校、うつ等の二次障がい

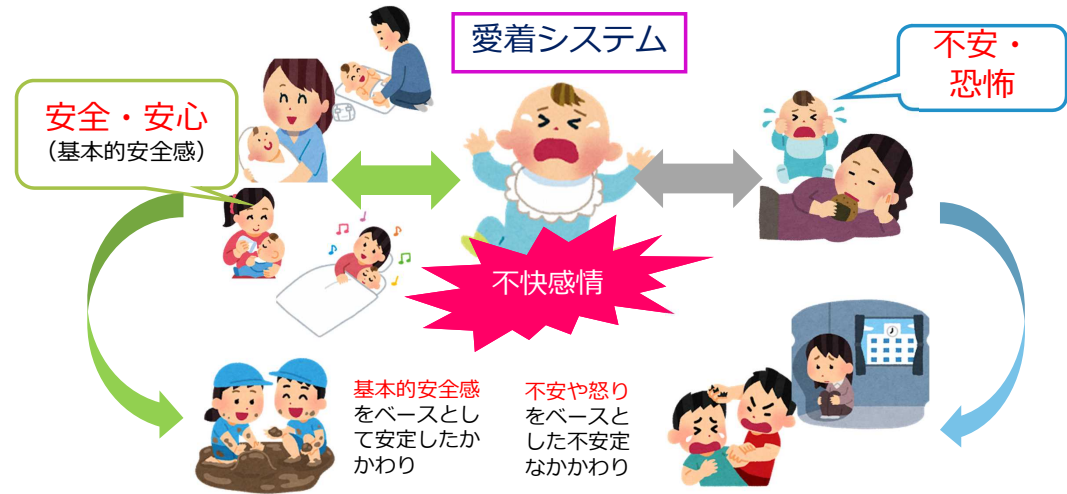
↑ 心理的問題

不安や悲しみ、怒りなどの「嫌な気持ちを抱えられない」
「不快感情」を「安全に抱える力が育っていない」

↓

「感情コントロールの発達不全」

愛着と基本的安全(信頼)感



愛着の機能

☆ 共感性、自己意識などの礎

→感情に共感的に反応し感情を映し出す (感情のラベリング)
感情をつなぐ、感情の学習

行動 (身体感覚)

認知

感情

例:

遠足バスに乗った

車より大きくて広がった
身体がゆられた

楽しかった

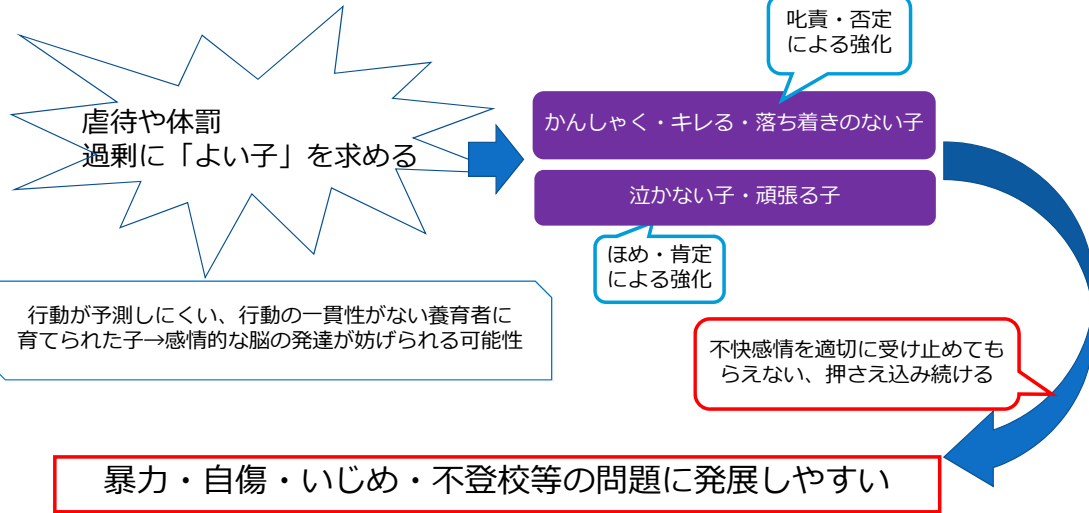
自分の心のなかのイメージを正確に認識してくれたという認識

感情を抑える子育て・教育の問題

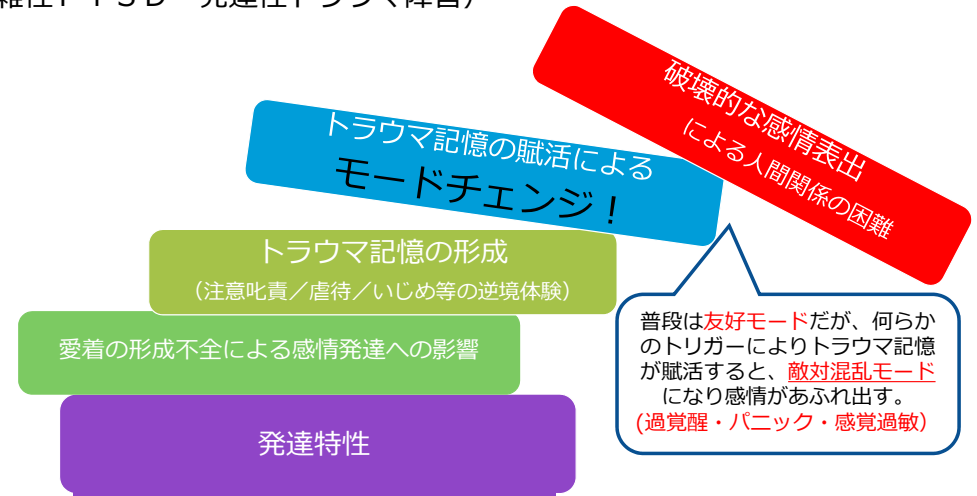
- ネガティブな感情が十分受け入れられず、抑える方向へしつけや指導が向かうことで、適切な感情の発達が阻害される。
- とくに虐待的なしつけや、過度によい子（過剰適応）を求める教育は、ネガティブ感情を否定したり、抑え込むことを子どもに強いていることが多い(日本の価値観の影響も大きい)。



逆境体験による感情発達不全



発達特性 + 逆境体験を抱える成人期の困難 (複雑性PTSD・発達性トラウマ障害)



感情発達をうながすかわり

感情発達のプロセスは、幼少期から体で表現される感情を、おとなによる言語化と承認による安心・安全感によって促進



否定的な感情にも目を向け、背後にある不安・イライラ・恐怖・悲しみ等の気持ちを言語化して、無かったことや悪いことに置き換ええない取り組みが必要

対人関係が苦手な子どもの場合、自己と相手の感情的相互性に気づきにくい→ **タイミングを意識したかわり**

・発達障がいの特性、愛着や感情発達から理解

- ・ **発達特性に気づく** ← 早期の支援による生きづらさ軽減
- ・ **自己肯定感・自己効力感を促すかわり**
- ・ **共感的スキル** ← 依存的になることに注意が必要
- ・ **感情の言語化** ← 外れているとイライラになることも
- ・ **得意や好きを見つけて、好きを増やす**

□ 養育者（支援者）も、叱責や非難しかされなかったり、疲れていたり、余裕がないと、理解していても難しい